

未来医療研究人材養成拠点形成事業
オール新潟による次世代医療人の養成プログラム

トータルヘルスケア ワークショップとフィールドワーク 報告書



2016.8.24～26
新潟大学医歯学総合病院 次世代医療人育成センター

目次

開催概要と目標	2
タイムスケジュール	3
参加者名簿	4
1 日目 ワークショップ	5
アイスブレイキング 「こころに残る学習」	
口腔ケアに関するミニレクチャー・実技	
口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題（KJ 法）	
フィールドワークの目標	
1 日目のまとめ	
2 日目 フィールドワーク	9
1 班報告書 田村歯科・桜井の里	
2 班報告書 柏崎総合医療センター	
3 班報告書 よねやまの里	
3 日目 ワークショップ	17
フィールドワーク体験共有	
感想	
アンケート	29

平成 28 年度

第 1 回「トータルヘルスケアワークショップとフィールドワーク」

開催概要

主 催：新潟大学医歯学総合病院次世代医療人育成センター

協力者：新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座地域医療部門

新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センター・総合臨床研修センター

新潟医療福祉大学

新潟薬科大学

日 時：平成 28 年 8 月 24 日（水）9:00～16:00

～

平成 28 年 8 月 26 日（金）9:00～12:00

会 場：新潟大学 臨床技能教育センター （旭町総合研究棟 4 階）

ワークショップとフィールドワークの目標

●一般目標 G10：

「口腔ケア」を一つの切り口として、超高齢社会を支える保健・医療・福祉への理解を深め、「チーム医療」と「多職種連携」の意義を学習する。

●行動目標（SB0s）：

1. 口腔ケアにおけるチーム医療・多職種連携の意義を説明できる。
2. K J 法や二次元展開法を用い、発想できる。
3. 超高齢社会の問題点を説明できる。
4. カリキュラムとは何か、説明できる。
5. G10 と SB0s とは何か、説明できる。
6. フィールドワーク・口腔ケアなど体験実習の目標を説明できる。
7. 超高齢社会の優先課題を説明できる。

ワークショップタイムスケジュール

平成 28 年 8 月 24 日（水）

8:45-9:00	受付
9:00-9:05	はじめに
9:05-9:10	集合写真撮影
9:10-9:15	オリエンテーション「ワークショップとは」
9:15-9:20	「心に残る学習（絵）」について
9:20-10:00	グループ討議 1「心に残る学習（絵）」
10:00-10:20	発表 1「心に残る学習（絵）」
	（休憩）
10:30-11:00	ミニレクチャー1
11:00-11:20	実技講習
11:20-11:25	「口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題」について
11:25-12:10	グループ討議 2「口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題」
	- - - - - （昼食） - - - - -
13:10-13:30	ミニレクチャー2
13:30-13:50	発表 2「口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題」
13:50-14:20	ミニレクチャー3
	（休憩）
14:30-14:35	「カリキュラムと目標」について
14:35-15:15	グループ討議 3「フィールドワークの目標」
15:15-15:35	発表 3「フィールドワークの目標」
15:35-16:00	1 日目のまとめ・連絡

平成 28 年 8 月 26 日（金）

8:45-9:00	受付
9:00-9:05	「フィールドワーク体験共有」について
9:05-9:45	グループ討議 4「フィールドワーク体験共有」
9:45-10:15	発表 4「フィールドワーク体験共有」
	（休憩）
10:25-10:30	「WS/FWで学んだこと・感じたこと」について
10:30-11:10	個人ワーク「WS/FWで学んだこと・感じたこと」
11:10-11:55	ワークショップのまとめ
	全員で一言感想
	修了式



参加者名簿

	学校・学部・学科	氏名	WS・FW 班
新潟医療福祉大学	医療技術学部理学療法学科 3 年	阿部 友弥	3
新潟医療福祉大学	健康科学部看護学科 3 年	稲目 美穂	1
新潟薬科大学	薬学部薬学科 4 年	井上由佳里	1
新潟医療福祉大学	医療技術学部言語聴覚学科 3 年	大関 梨紗	2
新潟医療福祉大学	医療技術学部理学療法学科 3 年	大柳 春奈	2
新潟大学	歯学部口腔生命福祉学科 3 年	小川 遥香	1
新潟薬科大学	薬学部薬学科 5 年	奥川 舞	3
新潟医療福祉大学	健康科学部看護学科 3 年	春日美菜子	2
新潟大学	歯学部口腔生命福祉学科 3 年	北上佳菜子	2
新潟医療福祉大学	医療技術学部理学療法学科 3 年	小嶋 将	1
新潟医療福祉大学	医療技術学部言語聴覚学科 3 年	小菅 夢夏	3
富山大学	医学部医学科	篠宮 香菜	2
新潟医療福祉大学	医療技術学部言語聴覚学科 3 年	田村 和子	1
新潟大学	歯学部口腔生命福祉学科 3 年	間島 侑紀	3
新潟大学	歯学部口腔生命福祉学科 3 年	吉田 萌乃	3

1日目ワークショップ



心に残る学習

初対面のコミュニケーションが円滑になるアイスブレイキングとして「心に残る学習」をしました。「これまでで一番心に残る学習」をテーマにして、各自が模造紙に絵を描き、グループ内で自分の絵についての説明をします。全体の発表では、代表者が全員の絵を1枚ずつ説明し、絵に対する質問もあり、盛り上がりました。



口腔ケアに関するミニレクチャー



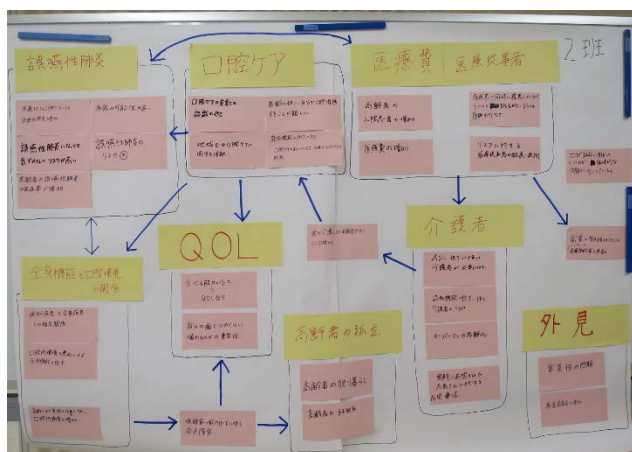
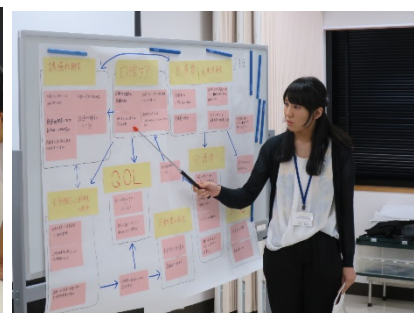
歯科医師による口腔内の構造（仕組・働き）について説明を聞いた後、歯科衛生士による口腔ケアの実演を見学しました。その後、口腔ケアグッズを用い学生同士で相互実習を行い、実際の口腔ケアを体験しました。





口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題（KJ法）

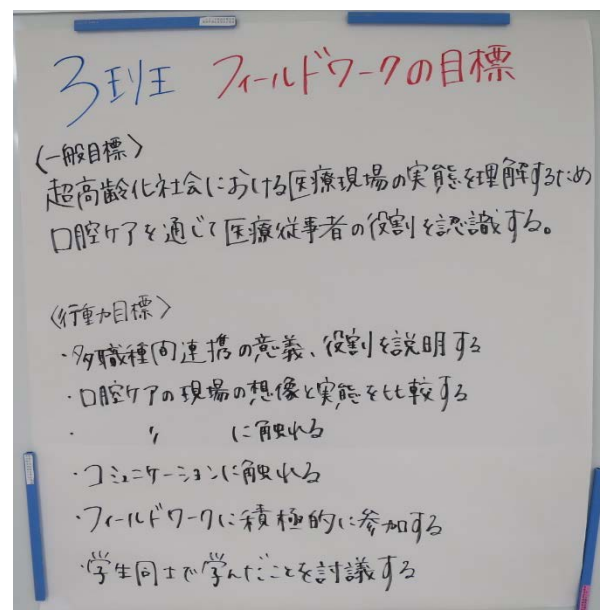
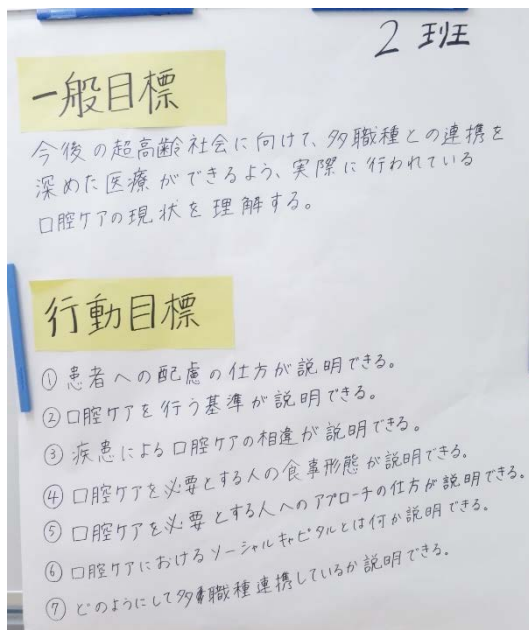
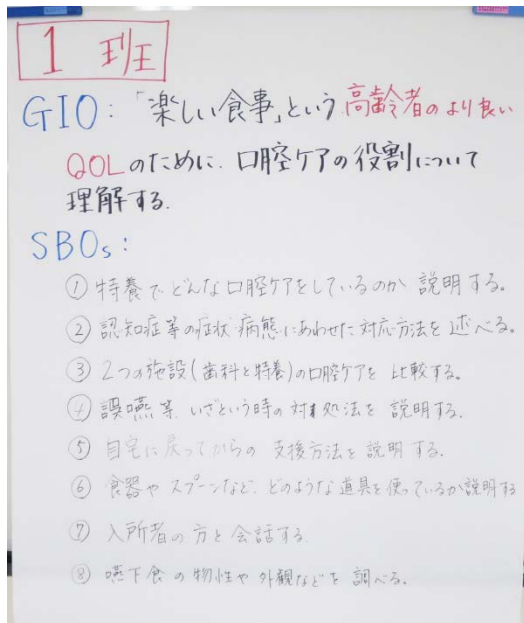
「口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題」について、KJ法を用いて問題点の討議を行いました。各自が思いついたことや意見をカードに書き込み、関連するもの同士を集めてグループ化します。グループにタイトルをつけ、相互関係を考慮しながら配置し組み立てて図解していきます。この作業の中からテーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出すことができます。「超高齢社会」の単語一つをとっても、そこから想起される事態は個々の学生によって異なり、その思いつきの中には大きな幅があるように思われます。また一方で、共通してみられる項目もあり、それらはより重要なものと考えられました。





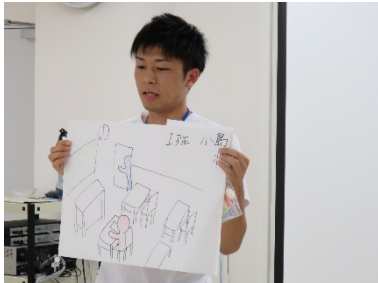
フィールドワークの目標

2 日目のフィールドワークで学びたいこと、聞きたいこと、体験したいことなどを話し合い、一般目標（GIO）と行動目標（SBOs）としてまとめました。将来の医師・看護師・薬剤師・歯科衛生士・社会福祉士という多職種の立場からいろいろな意見がでました。

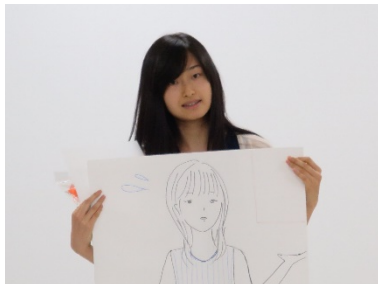


1 日目のまとめ

心に残る学習の絵から、スタッフが選んだ優秀作品の表彰がありました。



アーティスティックで賞



そっくり！！で賞



たても良くない？賞

2 日目フィールドワーク

フィールドワーク



1 班 田村歯科医院 / 特別養護老人ホーム 桜井の里

参加学生：稲目 美穂（新潟医療福祉大学 健康科学部看護学科 3 年）

井上 由佳理（新潟薬科大学薬学部薬学科 4 年）

小川 遥香（新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 3 年）

小島 将（新潟医療福祉大学 医療技術学部理学療法学科 3 年）

田村 和子（新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 3 年）

帯同者： 小川 洋平、田中 恵子

2016 年 8 月 25 日、まだ夏の日差しがまぶしい中、私たちはフィールドワークを行うため弥彦へと向かいました。

私たちのグループは 5 名、稲目美穂さん（新潟医療福祉大学健康科学部看護学科 3 年）、井上由佳理さん（新潟薬科大学薬学部薬学科 4 年）、小川遥香さん（新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 3 年）、小島将さん（新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科 3 年）、田村和子さん（新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科 3 年）、と、それぞれ目指す職種が異なる学生で構成されておりました。

9 時 30 分、予定通り田村歯科医院を訪れ、院長の高野尚子先生とお会いしました。高野先生にはこのたびの実習内容のコーディネート並びに当日の対応をして頂き、誠にありがとうございました。



高野先生から本日の行程の説明を受けた後、「訪問歯科診療ガイダンス」をしていただきました。持参する物品の紹介を含めた実際の訪問歯科診療をわかり易くお話ししていただきました。続いて「高齢者の口腔の状態と口腔ケア」に関するレクチャーを受けました。これにより学生は前日のワークショップで得た知識や考えたことを整理できたかと思えます。



その後、実習の会場となる「桜井の里」へ移動しました。到着後、土屋誠施設長より「桜井の里」についてご紹介いただきました。ここは「社会福祉法人 桜井の里福祉会」が開設し、現在は特別養護老人ホーム「桜井の里・絆」や短期入所施設、デイサービスセンターを有し、他にもグループホーム、ケアプランセンター、弥彦村地域包括支援センターなど各種事業・サービスを提供しています。「もうひとつのわが家づくり」を理念に掲げているとのことでした。

「桜井の里」と「絆」の施設内の紹介・案内は生活支援課総括の今井美恵子さんに行ってくださいました。施設内は建物が比較的新しく清潔感がありました。中庭は花や樹木だけでなく、入所者の希望により畑をつくり野菜を育てています。収穫した野菜は施設内のイベントなどの際に皆さんで楽しむとのことでした。明るく柔らかくゆったりした雰囲気であり、スタッフの皆さんが笑顔であいさつされることが印象的でした。施設内に天然温泉を利用した入浴施設や足湯を有することも魅力的な点でありました。



一通り施設内をご案内いただいた後は、学生からの質問を今井さんに受けていただきました。学生は見学に刺激を受けたようで、それぞれが目指す職種の役割などに関して熱心に質問しました。予定時刻を30分ほど超過し12時に午前のプログラムが終了しました。

昼食を挟んで、12時50分よりプログラムが再開されました。



午後からは1時間ほど、高野先生の指導の下、歯科衛生士さんによる実際の口腔ケアの現場を見学させていただきました。「桜井の里・絆」に入所されている4名の方に協力いただきました。いずれもご高齢であり、経管栄養を行っていたり進行した認知症をお持ちであったりと、それぞれの方に配慮しなければならないことがあります。緊張しがちな処置を、歯科

衛生士さんは話しかけにより上手にコミュニケーションを取りながら行っていきます。処置の際、皆さんの口腔は割と清潔なようでしたが、口腔ケアを開始した当初は汚れが目立っていたとのことでした。



口腔ケアを見学させていただいた後は田村歯科医院に戻り、高野先生から総括・質疑応答していただきました。歯科医師の立場から多職種連携の大切さについて実例を基にお話しいただきました。15時過ぎ、高野先生にご挨拶した後、弥彦を後にしました。



以上が私たち 1 班のフィールドワークのプログラムでした。このように知識の習得・実習ともに大変充実したものでした。参加学生にとって学部は違えどそれぞれの立場で、大変刺激的な学びの場になりました。この度の企画、そして 1 日を通して引率していただきました高野先生には大変感謝しております。

最後に、ご多忙のところ私たちのために時間をつくっていただきました、「桜井の里」関係者の方々、そしてご協力いただきました利用者さんに御礼を申し上げます。ありがとうございました。

第 2 班 柏崎市 柏崎総合医療センター

参加学生 新潟医療福祉大学 医療技術学部 言語聴覚学科 3 年生 大関梨紗
新潟医療福祉大学 医療技術学部 理学療法学科 3 年生 大柳春奈
新潟医療福祉大学 健康学部 看護学科 3 年生 春日美菜子
新潟大学 歯学部 口腔生命福祉学科 3 年生 北上佳菜子
富山大学 医学部 医学科 5 年生 篠宮香菜
帯同者 新潟医療福祉大学 医療技術部 言語聴覚学科 田村俊暁
新潟大学医歯学総合病院 次世代医療人育成センター 中井恵美
新潟大学医歯学総合病院 次世代医療人育成センター 黒川 亮

8:30 新潟医療人育成センター前に集合、点呼、全体写真を撮影

8:45 ジャンボタクシーにて柏崎へ出発

10:00 柏崎総合医療センターに到着

到着後、藤原正博院長と泉直也先生にご挨拶。

藤原院長より、柏崎地区の医療環境と柏崎総合医療センターの概要についてご説明いただいた。柏崎総合医療センターは 400 床の病床数を有する総合病院で、柏崎地域の 2 次医療を担う病院とのことである。



また藤原院長のご専門は、血液内科とのことで、白血病などで化学療法中の患者に行う口腔ケアの重要性についても、お話しいただいた。近年、癌治療など、身体への負担が大きい治療を補助する支持療法の重要性が取りざたされている。

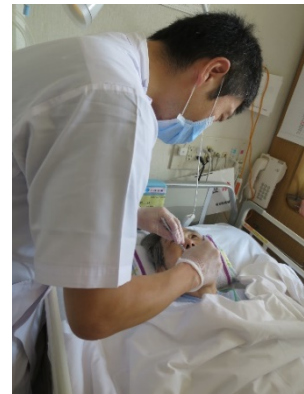
化学療法や頭頸部への放射線療法に伴い、治療を中断せざるを得ない程重篤な口内炎が生じることがある。これを予防する目的で行う口腔ケア(口腔支持療法)に数年前から医科歯科ともに保険点数が加算されるようになった。この加算に伴い、誤嚥性肺炎予防以外でも口腔

ケアについての注目度は高まってきている。柏崎総合医療センターには元々歯科があったものの、歯科医師は 1 名であったことから、入院患者の支持療法まで人員的に対応することが困難であったという背景があり、平成 24 年から歯科医師 2 名体制となった。その際、就任された歯科医師が口腔外科専門の泉直也先生とのことであった。

続いて、泉先生から自己紹介と病院歯科の役割、仕事について詳しいお話をいただいた。

病院歯科の仕事として、①一般歯科診療と②口腔外科診療、③入院患者の口腔ケア(口腔支持療法を含む)、④摂食嚥下機能障害患者への対応がある。当日は②、③、④の見学をさせていただき、早速歯科外来へ移動した。

歯科外来では、顎骨骨折術後患者の口腔ケアを行っていた。口腔内には、1 口腔単位で 30 億個もの細菌が存在するともいわれており、口腔外科手術後の口腔衛生管理の重要性は言うまでもない。本症例は、半年前に下顎を受傷され、骨折の手術を受けているが、骨折の治癒に伴い、今回は、骨片同士の固定を目的に使用していたプレートの除去術を行われた方であった。腕や脚の骨折と異なり、顎骨骨折では、ギプスのような装具は使用できないため、顎間固定という手技を用いて骨片の安静を図る。固定期間中は、開口できないため、食事や呼吸の管理にも十分留意しなければならない。泉先生から手術や周術期管理について、詳しくご説明を受けた。



歯科外来の見学後は、病棟に移動し、意識障害のある患者さま、白血病の患者さまの口腔ケアの説明を受けた。当日はすでに歯科衛生士による専門的口腔ケアが行われており、口腔衛生状態は良好であったが、更に歯科のマンパワーが増えれば、より積極的な介入ができるとのことであった。

12:00 昼食



病院近くの「 Grill Honda 」にて昼食。とんかつを中心とした揚げ物の専門店で、いずれのメニューもボリュームがあり、美味しかった。皆、満腹となり、午後の見学で、居眠りをしないようお互い注意喚起しながら、病院に戻った。

13:30 嚥下造影検査の見学

CT 室にて、嚥下造影検査(VF)を見学。VF は、放射線技師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科医師(泉先生)の 4 職種で行っている。見学した症例は脳血管障害に罹患した患者さまで、比較的若い方であったこともあり、嚥下障害は軽度であった。VF の際、食事介助は泉先生が行う。VF の画像は、三脚にセットしたハンディーカメラで動画として記録されていた(総括の際、伺ったが、現時点では CT 室に VF を直接録画する機材がないとのことであるが、現在の方法でも十分診断可能であるように思えた)。実際の試験内容であるが、とろみ付き



の水分は、スムーズに嚥下できていたが、とろみのない水分を摂取した際、ムセが生じてしまい検査を一旦中断、飲水はとろみ付けが必要という結論となった。

14:30 総括

控室にて、フィールドワークの総括と質疑応答。まずは、過去に行った、口腔ケアの難症例、VF の症例提示をしていただいた。VF がきっかけに咽頭部腫瘍が発見された症例など、興味深い症例が盛りだくさんであった。

その後、見学内容で得られた知識を元に、多職種連携や地域連携についての総論的なお話と活発な意見交換が行われた。それぞれの学科の学生が専門分野ごとの視点で発言していたことが強く印象に残った。

最後に泉先生から、1 日の総括となったが、日常臨床におけるコミュニケーションスキルにまで話は及んだ。いずれの職種においても、良好なコミュニケーションが取れることは大変重要なことであり、良いメだと感心すると同時に、話の内容から、泉先生の人柄がにじみ出ていて大変楽しいひと時でもあった。

15:00 泉先生にお見送りしていただき、柏崎総合医療センターを出発。

16:30 赤門前に到着。解散

3 班 特別養護老人ホームよねやまの里

引率者 鈴木 翼、小泉 健、坂爪 重明先生（新潟薬科大）

参加学生	新潟医療福祉大学 医療技術学部 理学療法学科	3 年	阿部 友弥
	新潟薬科大学 薬学部 薬学科	5 年	奥川 舞
	新潟医療福祉大学 医療技術学部 言語聴覚学科	3 年	小菅 夢夏
	新潟大学 歯学部 口腔生命福祉学科	3 年	間島 侑紀
	新潟大学 歯学部 口腔生命福祉学科	3 年	吉田 萌乃

実習内容

8:30 新潟大学医学部 赤門前集合

8:45 ジャンボタクシーにて出発

9:40 大積 SA で休憩

10:30 よねやまの里に到着

玄関口で、よねやまの里マスコットの「よねっしー」に出迎えていただき、渡辺次長・薄波歯科衛生士より、施設の案内を頂いた。特別養護老人ホームよねやまの里は、昭和 62 年に開設された 100 床の介護老人福祉施設である。当初は 50 床、その後増床し現在は 100

床となっている。建物も開設当初からの部分と、増築された部分があり、介護老人福祉施設の施設基準の経年的変化も含めて解説いただいた。



開設当初からの建物は、廊下の両側に居室があり、各部屋の仕切りも少なく、現状に合わせて工夫している旨をうかがった。窓の障子が「和風」のイメージ。

増築した建物は、現在の一般的な施設と同様、廊下も広く、居室もしきられていた。居室に対する考え方の変化が理解できた。



第2 デイサービスセンターに到着！

引き続き、施設概要をご説明いただき、さらに口腔ケアの取り組みについて、薄波歯科衛生士よりご説明いただいた。口腔ケアの重要性に注目が集まる前から取り組みを開始し、各職種スタッフを巻き込んで定着させてきた経緯をうかがうことができた。

11:20 第2 デイサービスセンターへ移動。

まず、薄波歯科衛生士による利用者の口腔の状態のチェックを見学した。口腔内の状態を定期的に評価し、管理することの重要性が理解できた。その後、オリジナルの「口腔ケア体操」を見学。口腔領域の運動のみでなく、四肢・体幹全体の運動を含めたケアであることを再認識した。

利用者さんのお食事も見学させていただいた。主菜は選択メニューであり、鶏肉のみそマヨネーズ焼きと焼きサバを、実際に見て選ぶことができた。希望があれば両方摂食することも可能とのことで、食に対する喜びを引き出す工夫とのことだった。

12:20 口腔ケアの見学

食後の口腔ケアを実際に見学した。一人一人の歯磨きをお手伝いし、磨き残し等のチェックや口腔内の異常をチェックしていた。また、義歯の管理など、利用者本人・ご家族も介入しにくい部分への介入も行っていた。利用者さん一人一人に丁寧に声掛けを行い、自発的に口腔ケアを促す様子に学生も感銘を受けていた。



←利用者さんの嚥下機能評価中の薄波歯科衛生士



← 体操にも挑戦！



↑ 利用者さんが一人一人順番に洗面所で歯磨き。薄波歯科衛生士はじめスタッフが口腔内もチェックし、アドバイスも行っていた。



13：30 食事 中野茶屋

14：30 ソフト食の試食

よねやまの里に戻り、湯本栄養管理士に解説頂きながら、実際のソフト食、トロミ付きお茶を体験した。形態が異なるものの、予想以上に食材そのものの味が感じられて、工夫を実感できた。



15:00 質疑応答

実際の利用者さんの現状を、食事の面や口腔ケアの面から解説頂いた。今後、高齢者が増えるにあたり、口腔ケアの重要性が増すと同時に、サービス提供の多様性に対応しないといけないという課題についてもお話いただいた。超高齢社会を超えて、2025年問題を目に前にし、今後医療職に就くにあたり、身が引き締まるお話をうかがうことができた。

よねっしーと記念撮影。ありがとうございました。



16:30 よねやまの里出発

18:30 新潟大学医学部赤門到着し解散

今回のフィールドワークでは、口腔ケアの重要性を現場で実際に体感できただけでなく、その取り組みを継続していくために、多職種連携が重要であることが感じられた。非常に先進的かつ積極的な口腔ケアを実践していることに感動したフィールドワークであった。

最後に、ご多忙のところフィールドワークにご協力いただいたよねやまの里の皆さまに心から御礼申し上げます。

3日目ワークショップ



きのう何を見て聞いて感じたか

2日目のフィールドワークで訪問した施設で見てきたこと、聞いてきたことや体験してきたことを、帰路から話し合いまとめました。スライドを使い各班で発表しました。



感想



新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科 3 安部 友弥

私は、WSに参加する前までは、口腔ケアについての知識がなく、ただ、口腔内をブラシやスポンジで綺麗にするものだというイメージでした。しかし、講義を聞いて口腔内を綺麗にすることだけではなく、身体機能や食事まで見る必要があることが分かったので、理学療法士は生活をよく見ていることもあり、理学療法士の必要性も感じました。

実際に、FWで見学している時、理学療法士として、どう参加できるか？と考えながら見学していました。一人で歯を磨く行動は、若い人にとっては何気なく出来ることですが、患者さんにとってはとてもつらい“運動”になると考えました。見学中に気付いたこととして、利用者さん全員、椅子に座り歯を磨いていました。また、両肘を机において、少しでも楽な姿勢かつ、少量の運動で歯を磨いている光景をみました。ここから、理学療法士はADL評価や、住宅改修の際は、洗面台の状態と構造を把握する必要があると思いました。生活の環境を見直すことも、口腔ケアには大切なことではないかと思いました。

以上のことから口腔ケアと理学療法士は無関係ではないと言えます。具体的な関わり方はまだ分かりませんが、とても必要であると感じることができただけでもとてもいい体験になりました。

今回、口腔ケアだけでなく、多職種連携と超高齢社会についてもたくさんのことを学びました。FWでは、いろいろな職業を目指している学生と交流することで、いつもと違った視点から物事を考えることができました。また、その学生の意見を聞いて大変勉強になりました。現場をみることで、働いた時のイメージもできていい体験になりました。現場の人達が言うには、まだ職同士で見えない壁があると聞きました。この壁は患者さんにとってはとても悪いことだと思うので、学生の時から多職種連携について体験できたのは、メリットになると感じました。

最後に超高齢社会についてですが、講義とFWから、とても重要である問題だと認識しました。ほぼ一人の高齢者に一人の若者が支えると講義で聞いただけではイメージがあまりできなかったのですが、FWで現場を見ることや保険の話聞いて危機感が出てきました。こうなってしまった今、この問題を解決するには、やはり多職種連携が大切なカギになるのではないかと感じました。

新潟医療福祉大学健康科学部看護学科3年 稲目 美穂

3日間のワークショップを通して、これまで曖昧であった口腔ケアの重要性をはっきりさせることができたように思う。また、1日目のアイスブレイキングから始まり、3日間のフィールドワークに至るまで班の人とコミュニケーションを取ることを通して他職種との連携についても学ぶことができた。

1日目で最も印象に残っていることは、口腔ケアの実技実習である。これまで、人の歯をじっくり見たことはなかったし、触ったこともなかったため、とても刺激的であった。また、口腔ケアを経験することもあまりなく、貴重な体験となった。スポンジブラシはある程度の力を入れた方がくすぐったく感じないこと、保湿剤の味など、口腔ケアを体験して感じたことを患者さんなどに口腔ケアを提供する際に生かしていきたいと感じた。

2日目では、歯科診療所、特別養護老人ホームを訪れた。診療所では訪問診療や口腔ケアの重要性について、歯科医師さんからお話をしていただいた。その中で印象的であったのは、訪問診療で使うポータブルの治療である。20kgはあるのではないだろうかと思われるほど重い道具を女性2人という少ない人数で運び診療に行くというお話を聞き、訪問診療は体力を使うのだと感じた。しかし、自分の力で歯を治療するために移動することができない患者さんにとって、自宅に来て歯科医師が治療してくれることは、とてもありがたいことなのだと感じ、訪問診療の魅力を知ることができた。

特養では、4名の口腔ケアを見学させていただいた。その中で最も印象に残っているのが、認知症の利用者さん達である。利用者さんは当然見学に来た私達に驚かれて、口腔ケアの集中力が切れてしまう場面が多々見られた。そんな時、歯科衛生士さんは「今日はモデルさんだからね」と声をかけることで意識を口腔ケアに向けていた。このようなやり取りが

何度も見られ、その度に衛生士さんは笑顔で利用者さんと接しており、自分もこのような関わりが出来るようになってみたいと感じた。また、衛生士さんは地域の言葉で利用者さんと会話しており、距離が近いように感じられた。地域の言葉で話すことで、医療者と利用者という壁がなくなり、同じ地域住民として接することができるのではないかと感じた。また、別の利用者さんの口腔ケア終了時に、口腔ケアを受けてみてどうかという質問をしたところ、笑顔で「気持ち良かった」「さっぱりした」との応えがあった。フィールドワークへ行く前は、口腔ケアの現場は暗いイメージであったが、この場面から、口腔ケアの明るいイメージを持つことができた。

私達のグループでは、グループ討議で「楽しい食事」というキーワードが出てきた。特養では、「楽しい食事」として外食へ出掛けたり、居酒屋を開いたりなど様々な取り組みを行っていた。また、外食へ行く際には、とろみ剤やキッチンばさみを持っていくなどの配慮をしていた。このように「楽しい食事」に向けた取り組みを知ることができたのは大きな収穫となった。「楽しい食事」は今後口腔ケアを考えていく際のキーワードにしていきたいと感じた。

新潟薬科大学薬学部薬学科 4 年 井上由佳里

まず初めに伺った田村歯科医院では、口腔ケアや訪問診療についてのお話を聞くことが出来ました。訪問診療は 1 日に多くて 2 人くらいという事でした。患者さんの自宅に訪問し、限られた道具・時間の中で作業することは、体力が必要で大変なことなのだろうなと感じました。

次に、特別養護老人ホーム桜井の里の見学をしました。自分が想像していた暗いイメージとは違って、とても暖かい雰囲気で見学しました。庭に畑があったり、居酒屋の開催や忘年会など老人ホーム内のイベント、近くの保育園との交流もあったり、入居者の方が楽しく過ごすための配慮を感じることが出来ました。

施設では、口腔ケアの見学もさせていただきました。最も印象に残ったのは、入居者の方と歯科衛生士さんとのコミュニケーションです。入居者の方、個人個人に合わせた声掛け、間合いの取り方はとても勉強になりました。作業をする前に「これから〇〇〇しますね」と言うことで相手も安心して、身を委ねられるのだなと感じました。医療人として患者さんとのコミュニケーションは欠かせません。日頃から意識して、相手がどういう気持ちか、自分に出来ることは何か考えながら行動しようと思いました。

新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科 3 年 大関 梨紗

口腔ケアの重要性について

私は、言語聴覚学科の学生のため、講義で口腔ケアについて学ぶ機会が多くあった。口腔ケアについても歯科医の教授から演習を受けたことがある。口腔ケアが誤嚥性肺炎のリスクに関与するため、重要な医療行為であることは知っていたが、興味を持つことは出来

なかった。それは、顔見知りの学生同士で行う演習の怠慢さによるもので、ワークショップで他大学の学生と講義を受け演習を行うことで、気持ちが引き締まり、口腔ケアそのものにも実直に挑むことが出来た。趣旨は異なるかもしれないが、口腔ケアの重要性を認識していても環境により行為への興味が上昇し、勉強会への参加の意味が理解できた。

フィールドワークに参加して

柏崎総合医療センターに見学に行き、口腔ケアはケアだけでなく治療の意義もあると感じた。食渣や口内炎のケアはもちろん、下顎骨骨折への治療も口腔内環境を調える意味では同じであると思った。

STを目指すものとして生のVFを見学することができて感動した。見学させていただいた患者さんは心原性脳梗塞で左脳大部分に梗塞がみられた。全失語による指示の入りにくさにより、梨状窩に食塊残留がみられても追加嚥下が不可能であったが、とろみ水の嚥下により同様の効果が得られることは教科書では学べないことなので、貴重な体験をすることができた。口腔とは関係ないが、学生で全失語の方に会うことはほとんどないため、反応もまた貴重な体験であった。

まとめ

ワークショップに参加して、初対面の中口腔ケアをし、仲間内で練習するときにはない緊張感により私自身の意識改革ができた。また、分野が異なる着眼点も様々で勉強になることが多かった。それぞれに専門性があるため、教えてもらい尊敬することもあれば、自分の職に誇りが持てることもあり、チーム医療・多職種連携の基盤に気付けたように思う。

新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科 3 大柳 春奈

私は、今回のフィールドワークを行うまでは口腔ケアについての知識がほとんどありませんでした。大学の講義で嚥下や食事形態について少し勉強したり、VFの映像を見ることはありましたが、実際に行っていることなどは分かりませんでした。

今回、同じグループには、言語聴覚士を目指している方や歯学部の方の方がいたため自分が知らない分野について知ることができました。

病院見学では、柏崎総合医療センターに行きました。今まで私が経験した見学はリハビリが主だったため歯科の現場を見学することは非常に新鮮でした。顎を骨折した患者さんに関しては顎の模型を作り立体的に顎の構造をみることで今後の治療に活用していました。各診療科によってもやり方が異なっており、興味深かったです。

VFを行っている現場では、STの方が中心になり、ビデオで撮影しながら行っていました。私は、誤嚥していないかという判断しかできませんでしたが、STの方々は真剣に映像を見られていたことが印象的でした。VFを行った患者さんのMRI画像も見せていただきましたが、今まで見た中で梗塞が最も広範囲で衝撃を受けました。梗塞部位をいかに早く見つけることが大切であることを改めて実感しました。

担当の先生が持って来てくださった本の中に「専門的口腔ケアに影響を与える全身疾患」というページがありました。そこには、私が大学で勉強した疾患のほとんどが記載されていました。PTは口腔ケアには積極的に関わることはできませんが、将来私が関わっていく患者さんのほとんどは口腔ケアを行うことで合併症を予防できる可能性があるということを頭に入れていきます。

3日間を通して口腔ケアの大切さを知ることができました。今まで関わるができなかった職種の方々と話し、多くの話を聞くことができ非常に充実していました。グループのメンバーにも恵まれ楽しく終えることができました。この出会いを是非大切にしていきたいです。ありがとうございました。

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 3年 小川 遥香

今回このトータルヘルスケアに参加して思ったことは周りの人と協力することが何事にも大切なのだなということです。

まず、1日目にいろんな大学の皆さんと顔合わせをして初対面の人達とグループで話し合っ、模造紙にまとめるときに自分一人では絶対に出ないような意見とかが出てきて皆で意見を出し合うことでいろんな視点から物事を見ることが出来るということを学びました。また、ごはんを一緒に食べることでお互いの距離も縮まったなと感じました。

2日目のフィールドワークでは、田村歯科医院と特別養護老人ホーム桜井の里の見学に行かせていただきました。田村歯科医院は女性の歯科医と歯科衛生士の2人で切り盛りしていて、訪問診療も行っているそうで、とても体力が必要だなと思いました。訪問診療ではどこの歯科医院でもやっているわけではなく、田村歯科医院では、今まで通ってきたださっていた患者さんたちがだいたい高齢になってきて通うのが難しくなっている、代わりに出向いて診療していると聞き、自分が診ていた患者さんを通えなくなったからと見捨てず、自ら訪問して治療を行う姿勢が素晴らしいなと感じました。特養での口腔ケアは今回初めて見学させてもらって、歯科衛生士が胃ろうの方や認知症の方に1人1人声かけや会話をしながら穏やかな雰囲気でおこなっていて接し方という面でとても勉強になりました。患者さんとのコミュニケーションは誰から教わるとかではなく、自分の経験から培われたものなのかなと感じました。特に認知症の方は同じ話を何度も繰り返していた印象をもったのですが、歯科衛生士の方は、毎回優しくそれに答えていて、注意が逸れてきたら別の物に注目させて、口腔ケアに引き戻したりという工夫をされていて、認知症の方との接し方など、とても勉強になりました。

食事の面では、ごはんや味噌汁はユニットごとに作ってニオイや音を感じてもらう工夫がされていたり、お昼は選択できて、文字だけではメニューが分かりにくいのでその場で見て決めてもらったり、畑や利用者の家族が持って来てくれた野菜を使ったり、外食にときどき行ったりと、高齢者にとって食事をすることは毎日の楽しみだと思うので、いかに楽しく食事が出来るかいろいろ配慮がされていて利用者の方の笑顔がとても印象に残りました。

しかし、これらのことをするには1人の力ではなく、いろんな職種の人が力を合わせて成り立っているのだということに気付きました。特養に関わっている人だけでも介護士、保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚学士、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師…他にもたくさんの人達が連携していて、超高齢社会を支えるにはたくさんの職種の人達がそれぞれの得意分野を生かして連携していくことが大切なのだと思います。

今回トータルヘルスケアに参加してとても良い経験が出来ました。

新潟薬科大学薬学部薬学科5年 奥川 舞

今回のワークショップを通じて様々な専攻分野をもつ、他の学生との関わり合いから、薬剤師のチーム医療における役割が明確になり、大変有意義な時間を過ごすことができました。普段の学習では、同じ学部のメンバーとしか勉強をすることができず、どうしても学ぶ内容が平面的になりがちですが、実際に現場でフィールドワークを行ったり、一つの課題に取り組むことで、学校の勉強では見えてこなかったことが見えてくるようになり、とても勉強になりました。また、今回は口腔ケアを通じて見る超高齢社会ということで、口腔ケアがひとつのテーマとなっていました。ワークショップ1日目に行った、3人組で他学生の口腔ケアを行う実習は、薬科大学にとどまっていたらおそらくこれからも学ぶことのない内容であったと思うので、実際に手を動かしながら学ぶということも含め、楽しく活動を行うことができました。

2日目に、フィールドワークに参加した際に、実際に施設の職員の方とお話しする中で見えてきた、各専門職種の壁という言葉も心に残りました。そのような内容は、チーム医療や多職種連携というテーマについて学ぶために本を読んだ際にも出てきていましたが、実際にもそういったことというのは仕事の中でぶつかる壁のひとつなのだと、今回のワークショップに参加して痛感させられました。しかし、まだ働く前の学生の段階から、他学部や他大学の同年代の方々とこのようなテーマを設けて友達のように仲良くやり取りをする中で、そういった職種間の壁というのは少しずつ取り除かれ、お互いに他の分野、他の職種への理解が深まっていくのではないかと感じました。

また、その他で印象に残ったことは、実際に特養で高齢者の方に提供されている介護食の試食体験です。普通の食事形態を、患者様の嚥下機能に合わせてムース食に作りかえたり、味に関してもムース食と普通の食事形態とで変わらないように、という管理栄養士の方の工夫もとても素晴らしいことだと思ったのですが、食の好みというものは普段食べてきたものなどに影響されたり、世代によってもだいぶ嗜好の異なるものでもあるので、1人1人に合わせて、ごはん→パンへの変更や韓国出身の方は、朝はキムチ、これから先の世代はコーヒーをよく飲用するなど世代間によって違いがあるのも面白かったです。そして、人が食から喜びを得るように、患者様にお薬を提供する際にも、患者様の生活背景にまで関心をもって取り組むことが、剤形に精通することも考慮して、これからの高齢者医療の現場で必要とされてくることのひとつなのかなと感じました。3日間大変お世話になり、どうもありがとうございました。

新潟医療福祉大学健康科学部看護学科3年 春日美菜子

今回のトータルヘルスケアに参加したいと思ったきっかけは、看護の実習で口腔ケアを行った際に、患者さんが嘔吐してしまい不快な思いをさせてしまったこと、多職種連携に興味があったことが参加しようと思ったきっかけです。

1日目のワークショップでは、実際に口腔ケアを行い、歯科衛生士の方や同じ班の人から口腔ケアを行ってもらい、今まで行ってきた口腔ケアとは違うと感じました。今までも口腔ケアを練習したことはありましたが、スポンジブラシの感覚に慣れず、口腔ケアをやっても気持ち悪いという印象でしたが、歯科衛生士の方からやってもらうとマッサージのような感覚で初めて口腔ケアが気持ち良いと感じました。今後、看護師として口腔ケアを行う機会はたくさんあると思うので、今回学んだ技術を生かすことができたらいいなと思います。

2日目のフィールドワークでは、実際に病院を訪ね、多職種連携や歯科医師の口腔ケアを見学することが出来ました。特に印象的だったのがVFの検査では、言語聴覚士の方が主となり、検査の準備を行い、検査時の指示を出し検査後の評価を病棟看護師に伝えるなど多職種間での情報を共有していました。看護師として、VFの検査に直接関わることは少ないのですが、検査室に連れていくだけでなく、VFの検査目的や結果を把握し、病棟での食事は何に気を付けなくてはいけないのかを知ることが必要だと感じました。

3日間を通して、口腔ケア・多職種連携の大切さを学びました。1日目のワークショップで超高齢社会の中で、口腔ケアがいかに必要であるか学ぶことができました。高齢者の増加に伴い、加齢や他疾患によって増加し続けると予測される誤嚥性肺炎は、口腔ケアによって発症や重症化を抑えることが出来るので、口腔ケアの重要性を知ることが大切であると思います。また、1つの職種だけでは知識の偏りなどが考えられるので、お互いの知識や技術を補完するためにも多職種連携が必要だと思いました。

今回のトータルヘルスケアで、他の専門職の人と一緒に学び良い機会となりました。

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科3年 北上佳菜子

今回このトータルヘルスケアで、超高齢社会の中で口腔ケアがいかに重要かということが分かりました。今まで口腔ケアが実際病院などでどのように行われているかよく分からなかったのですが、スポンジブラシや保湿剤など様々な口腔ケア用品を使ってケアしていることが分かりました。口腔ケアをすることで、歯科疾患だけでなく全身疾患も予防できることから口腔ケアをすることの意義についてよく分かりました。

WSでは、普段の大学生活でもグループ学習をしているのですが、様々な学科の学生とのグループ学習は初めてで、とても新鮮に感じました。他の学生と話をする中で、皆一つの物事に対しての視点が違ったので、学ぶことが多くあり、自分が知らなかったことを知るとはとても楽しかったです。またそれを通して他職種の方と連携することは自分が想像している以上に大変なことだと感じました。

FWに参加した中で、他職種の方との連携が印象に残りました。看護師や医師、言語聴覚

士さんなど様々な職種の方との連携が求められることを知り、歯科のことだけではなく、様々な分野についての知識も必要だということが分かりました。同時に他職種の方との連携の中ではコミュニケーション能力も重要になってくことも学び、これからの大学生活の中で、改めてコミュニケーションスキルを高めていきたいと思いました。

これからの超高齢社会に伴って、口腔ケアの重要性がますます浸透すると思います。その中で自分が歯科衛生士として、患者さんに満足してもらえるような技術や知識を提供できるように、これからの大学生活で色々な経験をしていきたいと思いました。

新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科 3 年 小島 将

私は、今回のこのワークショップとフィールドワークに参加させていただき、口腔ケアの必要性和多職種連携、超高齢社会についての理解を深めることができました。

口腔ケアについて、全く知識が無かったため、PT が口腔ケアに関わって仕事することはあまりないのではないかと考えていました。しかし、口腔ケアの話を聞き、実際に現場を見学させていただいて、PT がより良い口腔ケアを行えるように、姿勢保持能力や歯ブラシを使うための上肢機能、洗面台まで歩くための下肢機能を維持・向上させることが必要なのだと感じました。また、超高齢社会を迎えるにあたって、私たちのような若い年代が対策を考えていくことが重要になることも感じました。今回、特別養護老人ホーム「桜井の里」を見学させていただいた際、PT はディサービスに 2 人、入所者の方々の棟に 1 人と、医療機関ではないですが、少ないのではないかと感じました。このような場にも PT やその他職種の人数が増え、QOL がより向上できるようになるといいなと強く感じました。

初めて、特別養護老人ホームを見学させていただいたので、新鮮なことも多く利用者同士の助け合いであったり、利用者と介護者との信頼関係を見て、とても温かい印象を受けました。利用者の方とのコミュニケーションの取り方についてもとても参考になりました。聞き取りやすくはつきりと優しい声で話しかけ、認知症の方へは、上手く言葉で誘導することで口腔ケアをしていたりと、私も臨床の場で実行できるようにしたいと考えました。

この 3 日間で、他の学生と関わり、他の職種について知ることができ、人それぞれ違った意見を聞くことで、とても良い刺激になりました。このワークショップとフィールドワークで学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたいと思います。

新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科 3 年 小菅夢夏

[目的] 口腔ケアを通して、多職種連携を学ぶ

[方法] ワークショップ (WS) とフィールドワーク (FW) に参加

[感想・考察]

口腔ケアには本当に多くの職種が関わっていることを改めて感じた。私は、今まで口腔ケアに関わるのは、言語聴覚士、歯科医師、看護師、管理栄養士くらいだと思っていた。しかし、今回の WS 開始時にその考えは崩された。理学療法士や薬剤師と私が思っていた

以上の職種が関わっていた。ある疾患があったとして、関わりが無さそうな職種でもどこかで何かしら関わりがあるのだろう。だから領域ごとに専門を作ってしまうがちだが、そんな壁を作ることなく、自ら関わっていくことが大切だと感じた。

FW では、なかなか見学できない所を見せていただけたと感じている。口腔ケアは大切とされているため、大切だということは分かっていたが、具体的なイメージとしては、ベッドサイトで行われるスポンジブラシで行うような特殊な物を使って行われるのが口腔ケアだと思っていた。今回ディサービスで自立歩行が可能な利用者さんの見学だったため、普通の歯ブラシを使い普通にブラッシングを行っていた。それは私の中で大きなショックでもあった。当たり前の事を当たり前に行うその考えは私の中にあるようではなかったものだった。

また、見学では介護の大変さなど実情を知ることができた。口腔ケアの際、義歯に薬がはまってしまい歯肉がただれるという話を伺った。その話は口腔ケアの重要性というものが、医療や施設で当たり前にありながらも普通の家庭では考えられていないのだと感じた。この状況から口腔ケアの重要性を共通認識として考えられるように今後努力していかなければならないと考えた。

富山大学医学部医学科 5 年 篠宮香菜

医学部では、一応歯科口腔の講義はあるのですが、国家試験の出題範囲ではないこともあり、あまり深く学んできませんでした。そのため、口腔ケアと全身疾患に関連があると分かっているながらも、口腔ケアについてはほとんど知識がなく、この 3 日間で様々なことを学ぶことができました。

一日目は、初めて会った大学も学科も違う人達で、不安も大きかったですが、すぐに打ちとけることができ、活発に議論することが出来たように思えます。また、全員学科がバラバラだったため、自分が絶対気付くことができないような視点から意見を聴くことができ、とても貴重な経験となりました。特に富山大学は看護学科と薬学部しかキャンパスが同じではないため、言語聴覚学科や理学療法学科などは普段全く関わることはできません。そのような人達と働く前の学生の段階で、このような形で関わったのは、将来自分が病院で働く際に大きな糧になったと思います。

二日目の実習では、実際の口腔ケアの現場を自分で見ることができ、歯科衛生士の方だけでなく、様々な職場の方が連携しているのを改めて痛感しました。

口腔ケア後の患者さんのさっぱりした様子を見て、口腔内の衛生環境と疾患の関連以前に、口の中が綺麗だと気分も晴れ晴れとしてくるなあと思い、患者さんの精神的なケアの一面もあるように感じました。

今回のフィールドワークを通し、大学では学ぶことのできない経験をでき大変貴重な時間となりました。お忙しい中、親身にご指導頂いた先生方やこのような機会を与えてくださった方々に深くお礼申し上げます。

新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科 3 年 田村和子

今回、嚥下がテーマであることと、学科内でとても良いプログラムなので参加した方がよいと推薦があったため、当ワークショップに参加させて頂いた。大学の講義では、体感できない口腔ケアや嚥下の症例に触れ、摂食嚥下について理解を深めるというのが目的だった。

参加させて頂き、想定していたのとは異なる質と量の情報に驚いた。初めてのアイスブレイキングで自分の学習の転機を問われた時、同じ班のメンバーの回答がどれもこれまでの自分では考えつかないものばかりであったため、とても新鮮で心地よい刺激を受けた。高い山に登り、雲を見下ろした爽快感を例に、努力すれば報われると知ったと述べたメンバーがいたが、正にそんな気分を冒頭から味わうことができた。以降 KJ 法を用いた発想法やグループの意見をまとめる過程、カリキュラムや GIO, SBOs の意味など、新しい知識から知っているつもりで知らなかった知識まで講義をして頂き、知識の整理や蓄積ができたのもとても有難い機会であった。その後に体験することで各々の知識を自分のレベルにおとしこむことができ、理解だけでなく活用できる知識にすることができたと感じている。

2 日目のフィールドワークでは、訪問診療に取り組む歯科医・歯科衛生士の姿を拝見して高齢者の多い社会を支える現場について理解を深めることができた。特別養護老人ホームの利用者に口腔ケアを行う場面からは、認知症や寝たきりの高齢者と接する時のコツのようなものを垣間見る事ができた。大学の講義では、誤嚥を防ぐために SPO₂ のチェックやムセの有無、呼吸の状態の観察を欠かさない頸部聴診法の活用、VEVF による経口摂取可・不可の確定診断などいろいろと学んだが、介護・福祉の現場、生活の現場ではあまりその知識が登場する機会は少なく、誤嚥の推定は発熱の有無でみていること、1 人のスタッフが 2 人利用者に同時に食事介助を行うこと、開口できないが嚥下反射は正常と推定される利用者には、シリンジで液体の食事を口腔内に注入していることなど驚くことの連続であった。

まだ特養には ST が配置させておらず、ディサービスは機能訓練の加算があるため 1 名配置されている等、机上では学べない現状を目のあたりにした貴重な経験であった。

3 日間を通して、ご指導頂いた先生方やスタッフの皆様、フィールドワーク先の先生方、そして共に考え体験した学生メンバーから、新鮮な刺激を頂き、こり固まった思考をほぐすことができ、また豪華なジャンボタクシーや昼食、スタッフの方々のきめ細かな配慮に癒しを頂いた。フィールドワークで介護職員の今井さんがおっしゃっていた「皆さん、好きな物はどんなに障害があっても食べられるんですよ。例え物をつかめなくなった人でも、焼き鳥の串はつかめるんですよ」とおっしゃった言葉が、障害をきめつけるのではなくその人個人をみつめる視点を与えてくれた様に感じている。この 3 日間で頂いた小さな感動の積み重ねを忘れず、今後も ST めざして努力していこうと考えている。

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 3 年 間島侑紀

今回の WS・FW を通して、非常に多くのことを学んだ。

WS では、コミュニケーションの大切さを実感するのはもちろんのこと“その人がどのような性格でどのような考えをするのか”ということを見抜き、それを踏まえた点で、どう接し自分がどの様に働きかけていけば良いのか考えることの必要性について再認識することができた。医療人にとって、このようなことを考えながら人と接していくのは日常であり、持っていなければならない能力だと考えるため、これから様々な人と関わっていく中でこの能力を身に付けて行けるよう努力しなければならないと思った。

また、他の専門分野を学習している人たちと交流できたのは私にとってとても貴重な体験となった。同じ施設で同じことを見学していても、着眼点、発想の仕方、疑問に思うことが違ったため、先生や施設の人を交えながらの質疑応答や意見交換は、自分の視野を広げるといった意味で有意義な時間だった。

“多職種連携”ということ考えたとき、まず初めに必要なのはお互いの分野の知識をある程度まで身に付けた上で意見交換をし、課題に取り組むことだと思っていたが、実際に施設を見学させて頂いて様々な職種の方の話を伺うことにより、まずしなければならないことは、その人自身がこれまでにどのような生活を送って来たのか見ることだということを実感した。様々な人達が自分の視点から考えを持ち、他の人の意見と照らし合わせることで、1 人だけでは考えもしなかった案が浮かび、より良い解決策へと導くことができるのが、“多職種連携”の良いところであり、これから注目されるべきことなのではないかと思った。これから学習を進めて行く中で、人とどのように関わるか、自分がどのように動くか、座学だけの勉強だけではなく、実際に現場を見学できる機会、現場の人の話を聞ける機会を大切にしていければと思った。

また、様々な人や環境に触れることで新たな発見ができるため、日々成長できるよう、たくさんのことに積極的に挑戦したいと思った。

現在の医療の現場でどのようなことが行われているのかだけでなく、これから自分に必要なもの、学習への取り組み方が明確になった良い 3 日間だった。

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 3 年 吉田萌乃

今回、初めてこのワークショップとフィールドワークに参加したが、参加する前と後で考え方が変化したと感じた。参加する前は、歯科衛生士と社会福祉士の 2 つの分野でしか考えていなかったが、さまざまな専門の方と交流することで、考え方の視野が広がったと感じた。

ワークショップでは普段、PBL など自分と同じ専門の人と話す機会が多かった私は、理学療法や言語機能、薬剤のことについては全く考えていなかったが、そういった専門を学んでいる学生の方が考えることは、自分では全然気付くことができないところに気付いており、とても新鮮に感じた。

また、自分たちが普段当たり前にように使っている専門用語が伝わらなかったこともあり、

多職種間での連携には分かりやすい言葉と他の分野の基礎知識は常識として知る必要があることを学ぶことができた。

フィールドワークでは、歯科衛生士が常勤しており、さらに病院に併設しているという珍しい特養を見学することができた。そこでは口腔ケアが当たり前のように行われており、今後全ての施設が目指すべきものだと感じた。自分が専門としている口腔ケアについては実際の現場を見ることで多くのことを学ぶことができた。常勤の歯科衛生士さんは、口腔ケアをしている間ずっとその人と会話しており、とてもハキハキと話していた。口腔ケアの状態や会話の中から情報を引き出ししており、問題があれば家族に伝えたりするなど、施設を利用しているときは必ず口腔内の評価をすることはとても重要なことだと感じた。利用者さんとのコミュニケーションでは、その人だけを意識するのではなく、接しているところを他の利用者さんも見ているというところまで考えてやっているということがとても印象に残った。

3日間を通して、多職種での連携はその地域での包括的なケアを行うためにとても重要であることを学んだ、医療と介護の連携は昔に比べると進んだが、まだまだだというお話しだったので、会議など話し合う連携も必要だが、現場での連携がより重要になっていくのだと感じた。

私は、歯科衛生士と社会福祉士の2つの専門職について勉強しており、医療と福祉、介護との連携の重要性を強く感じることができたので、地域包括ケアというのが実現できるように、今回学んだことを他の人も共有し、今後も学習や実習に取り組んでいき、超高齢社会に対応できる人材になりたい。

アンケート



今回のワークショップ・フィールドワークを通して、参加した学生の口腔ケア・多職種連携に対する意識に変化がみられるかどうかを調査することを目的に、今回のワークショップ・フィールドワークの開始時と終了時に、参加者全員にアンケートを施行しました。

アンケートは、口腔ケア・多職種連携について特化したオリジナルで、口腔ケア・多職種連携に対するイメージ、コミュニケーション、将来の進路などについて、計 19 の質問項目からなります。それぞれ、visual analogue scale (VAS) を用いて回答する形式としました。各項目について、それぞれプレアンケートとポストアンケート間で比較検討しました。統計学的検討には Wilcoxon の符号付順位検定を用い、統計ソフトとしてヒューリンクス社の「SYSTAT 11 Windows 日本語版」を用いました。その他に、プレアンケートでは口腔ケア・多職種連携についての自由意見を記入式で設問した。また、ポストアンケートでは、今回のワークショップ・フィールドワークについての自由意見を記入式で設問しました。

アンケート結果を見ると、

- ・ 口腔ケアについて知っている
- ・ 口腔ケアは重要である
- ・ 口腔ケアにはやりがいがある
- ・ 誤嚥性肺炎を説明できる
- ・ 超高齢社会において誤嚥性肺炎の対策は必要である
- ・ 医療に関わる上で他職種との連携は重要である
- ・ 医療に関わる際、他職種との連携には自信がある
- ・ 「ソーシャルキャピタル」という言葉について説明することができる
- ・ 健康状態には、その人個人の要因だけでなく住んでいる地域の要因が影響する

以上の項目でワークショップ・フィールドワーク終了後は有意に VAS が高値となっていました。ワークショップ、フィールドワークの経験から、口腔ケア・誤嚥性肺炎・多職種連携・ソーシャルキャピタルについて、その基本的認識・重要性についての理解を深めることができたのではないかと思います。

アンケートの結果からも、今回のワークショップ・フィールドワークは、学生が医療職へのモチベーションを上げるよい機会となったのではと考えています。

	質問項目	プレアンケート	ポストアンケート	p値
1	口腔ケアについて知っている	48.1	72.5	p<0.01
2	口腔ケアは重要である	89.9	97.4	p<0.05
3	口腔ケアは歯科医、歯科衛生士の仕事である	50.1	54.6	n.p.
4	口腔ケアは看護師の仕事である	51.1	53.7	n.p.
5	口腔ケアは言語聴覚士の仕事である	43.3	54.4	n.p.
6	口腔ケアにはやりがいがある	71.6	90.3	p<0.01
7	誤嚥性肺炎を説明できる	53.1	84.1	p<0.01
8	超高齢社会において誤嚥性肺炎の対策は必要である	90.9	98.3	p<0.01
9	医療に関わる上で多職種との連携は重要である	93.5	98.2	p<0.01
10	医療に関わる際、他職種との連携には自信がある	45.3	67.8	p<0.001
11	地域住民と話すことが苦にならない(相手を想定した場合に)	50.5	54.0	n.p.
12	「ソーシャルキャピタル」という言葉について説明することは	11.6	63.1	p<0.001
13	健康状態には、その人個人の要因だけでなく住んでいる地域の要因が影響する	64.4	78.5	p<0.05
14	健康状態には、その人の社会的・経済的要因が影響する	78.9	79.7	n.p.
15	患者(患者家族を含む)と話すことが苦にならない(相手を想定した場合に)	38.1	35.6	n.p.
16	行政職(福祉課長や保健師など)と話すことが苦にならない(相手を想定した場合に)	48.0	45.1	n.p.
17	病院外での勤務によって、医療人の能力は低下すると思う	27.2	21.9	n.p.
18	将来働きたい場所は：へき地	38.5	50.3	n.p.
	都市部	53.0	53.1	n.p.
19	将来働きたい医療機関は：診療所	49.1	50.3	n.p.
	小規模	57.7	54.8	n.p.
	中規模	67.5	62.6	n.p.
	大規模	65.7	65.5	n.p.
	大学病院	62.3	57.5	n.p.

ご協力いただいた施設

新潟県厚生連柏崎総合医療センター

特別養護老人ホーム桜井の里

田村歯科医院

特別養護老人ホームよねやまの里

新潟大学医歯学総合病院 次世代医療人育成センター

〒951-8520 新潟市中央区旭町通 1 番地 754

TEL : 025-227-0885

URL : <http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/jisedai/>